



人口減少社会における最適な地域像をもとめて

～持続可能な地域づくりの実証的研究～

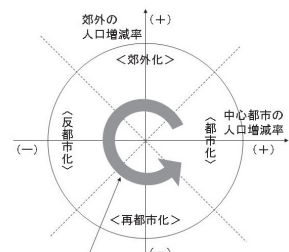
「都市・地域のライフサイクル研究」「観光による地域振興のあり方」「都市計画・観光政策の史的研究」を具体的な研究テーマとして、それぞれについて「理論」「実践」の両方の側面から、都市や地域の活力をいかに持続・発展させていくための道筋をどのようにつくっていくのかについて「都市計画」と「観光」の2つの視点から研究を行っている。

都市・地域のライフサイクル研究

都市や地域にはそれぞれ発展衰退段階（ライフサイクル）があり、それを明らかにすることで、初めて、長期的な展望が描けるのではないかと考えている。現在、**生活圏人口のライフサイクルを同定し、それに影響を与えた経済的・文化的諸要因について精査・分析し、都市・地域のライフサイクルのメカニズムの解明を目指している。**

- ① 平成 21 年度国土政策関係研究支援「事業持続可能な『生活圏域』の設定に向けた臨界点の導出」(国土交通省)
- ② Spatial-Cycle of Urban areas "Living-Areas" in Japan, 11th International Congress of Asian Planning Schools Association, 2011

都市・地域のライフサイクル研究イメージ



観光による地域振興のあり方

◆谷中地域の観光資源◆

- ◆歴史系資源
- ◆文化系資源
- ◆生活系資源
- ◆産業系資源

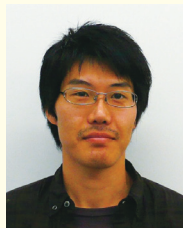
資源種別	件数	割合
歴史系資源	2	4%
文化系資源	43	62%
生活系資源	21	30%
産業系資源	14	20%
その他	6	9%
合計	60	100%
【調査対象】	19	20%



地域の人口が減少すれば、地域の活力は必ずと低下する。その対策としてよく取り上げられるのが、観光振興によって観光客（交流人口）を取り入れ、定住人口の減少をカバーするというもの。しかし、一般に観光客の動向は、流行・災害・風評等に大きく影響を受け、変動が激しいもの。こうした観光を、**いかに安定的な地域経営へとブレークダウンさせることができるか、様々な角度から検証している。**

- ① A Study on Sustainable Development through Tourism in Rural Area - A Case Study in Iiyama City, 10th International Congress of Asian Planning Schools Association, 2009
- ② Positive Integration between Tourism and Agriculture: Comparative Study on Agri-tourism between Iida and Aizu in Japan, International Conference on Tourism (ICOT 2011), 2011

●研究者紹介●



佐野 浩祥 [Hiroyoshi Sano] (観光学部 観光学科 助教)

- 2006年9月、東京工業大学大学院情報理工学専攻博士課程修了、博士(工学)。2009年4月より現職。
- 【主な著書・論文】
- ・『都市計画家・石川栄耀—都市探求の軌跡—』(共著、鹿島出版会、2009年)
 - ・『「観光資源」の概念と観光地計画における位置づけについて』(立教大学観光学部紀要、2010年)

●お問合せ● リサーチ・イニシアティブセンター

TEL:03-3985-4608 FAX:03-3985-2458 E-mail:research-koho@rikkyo.ac.jp
 ホームページ <http://www.rikkyo.ac.jp/research/initiative/>

掲載されている情報は2011年11月現在のものです。無断転載を禁じます。